

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第170号 (2024年4月号)

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



3月下旬は涼しい日が続き、雨も多かったような気がします。先月、東京に行く用事があり、せっかくの機会だったので昨年まで高松に住んでいた友人家族のところを訪ねました。お土産は“うどん”にしようと思っていたのですが、一応聞いてみたところ、「讃岐うどんをうまく茹でられないから他のもので」とまさかの返事。確かに“うどん”を茹でるのが難しいですね。我が家はもっぱら冷凍うどん。“うどん”以外のお土産をどうしようかと悩んだあげく、香川の特産を詰め合わせてみたら喜ばれました～みなさんは、お土産どうされていますか？



(2024.04.01)

今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。



いいよお～！！

この春休み、子どもたちは高校野球をテレビで見せて盛り上がっていました。次女は野球を見ても楽しくないので「アンパンマンが見たい～」と訴えていましたが、誰も耳を貸しませんでした。私は昔、テレビっ子で良くテレビを見ていましたが、今は話題になっているドラマを見るぐらいです。

最近見たのはTBS「不適切にもほどがある!」です。昭和のダメおやじがひよんなことから令和にタイムスリップし、彼の「不適切」発言が、令和の停滞した空気をかき回します。このドラマのテーマは昭和に比べ、令和の方が生きづらいということではなく、どの時代であっても寛容さが大切であることでした。私はドラマを見ながら、今月のニュースレターは「寛容」にしよう決めました。

だけど、いつも通り、なかなか書けないのです。家に帰って夕食を食べながら「ニュースレターが書けない～」と愚痴ると、妻が「テーマは何？」と聞いてきたので「寛容」と答えました。

「そういえば、この間のドラマ、そんなんだったよね」



その一時間後、あろうことか、いや、いつも通り私の不寛容さが爆発するのです。妻のミスを責めて責めて責めまくってしまいます。「次から気をつけてね～」の一言が出ないのです。年齢を重ねても、怒りの沸点が低いのは改善されません。

ある先生が「40代半ばになるまでに、どのように生きていたかで、それからの人生が決定する」と言われていたのを思いだし、急に怖くなりました。このままでは怒り狂って手に負えない高齢者になり、家族に見放されかねません。

こんなことを考えていたとき、朝日新聞の夕刊の記事が目に入り込んだのです。「復讐の連鎖のような戦争は終わらず、SNS上には誹謗中傷や差別の言葉が乱れ飛ぶ」世の不寛容を成敗してくれる人を捜していた記者は吉本新喜劇座長のアキさんのギャグに行き着いたそうです。

(アキさんのギャグ) 舞台設定は、たとえば、うどん屋さん。上下黄色いスーツに、髪形はオールバック。借金取りに扮するアキさんが現れる。…





店の人と「金返せ」「ありません」の押し問答。怒り心頭のアキさん。ここで相手が「すいません」と謝る。すると、アキさんは表情を和らげ、言う。「いいよお〜」舞台上ではみんながずっこけ、お客さんは爆笑。…

「許せない度には10段階あり、マックス許せないが10。いま許せるのは1から4まで、5から10は許せないとする。5や6も許せるようになったら、人生どれだけ前向きになれるでしょう。少しでも優しくなりませんか。寛容なことって、強くてカッコいい」

アキさんは学校に講演で呼ばれることがある。まず、子どもたちにペアになってもらい、1分間、お互いを否定し合ってもらおう。悪口のオンパレードだ。次の1分、肯定し合ってもらおう。「将来は社長だね」などとほめ合う。アキさんは子どもたちに語る。「肯定し合うって気持ちが豊かになるだろ？許し合おう、認め合おう」

【朝日新聞デジタル 2024. 3. 29 「いま聞くと」より】

いつでも「いいよお〜」と許せたら、どんなに楽で、生きやすくなることでしょう。でも簡単に「いいよお〜」が言えません。それは何でもかんでも許したら、その人のためにならないという変な正義感があるからです。これが私たちを不寛容にさせるのです。私も間違った正義感で、家族や仲間たちをたくさん傷つけ、批判してきました。それから得たものは、苦々しい思いだけ。

では、どうしたら寛容になれるのでしょうか。一つは自分の考えが絶対ではないと知ること。自分の考えがすべてだと思うと、人の考えをなかなか受け入れることができません。確かに自分の考えと違うことを受け入れるのは、大変です。「オレはこう思うんだ〜」と突き進みたくなるのです（これで何度も私は失敗してきました）。

そこをグッと我慢して、相手の意見に耳を傾けると、狭かった視野が広がります。その時、「あ〜突っ走らなくて良かった」と心から思えるのです。このように人の意見を受け入れることが寛容の第一歩でしょうか。

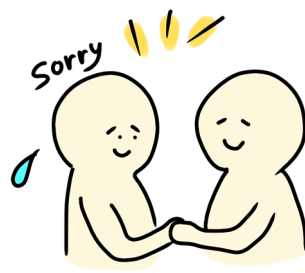


もう一つは、許された存在だと知ること。本当に失敗だらけの私を、家族や周りの人たちは許し続けてくれました。このことを忘れず、自分はこれまでも許され、今も許され、これからも許され続けなければならない者だと、しっかり受けとめることが大切なのではないかと思わされたのです。

さらに私たちが心にとめておきたいことは、私たちを愛し、私たちを生かしてくださる主なる神様は、私たちを赦し続けてくださるということです。私たちの主なる神様は、私たちの悪い行いに目を光らせ、罰を下そうと身構えておられるお方ではありません。私たちが横道に逸れ、身勝手な歩みをして、悪行の限りを尽くしたとしても、心から反省し、悔い改めて「ごめんなさい」と主なる神様に祈るなら、主なる神様は全ての悪い行いを赦し、「もうあなたの罪・悪は思い出さない」と宣言してくださるのです。

そして私たちを限りない愛で包み込んでくださいます。この主なる神様の愛の中に飛び込み、主なる神様の赦しに与るなら、私たちは徐々に寛容な者へと変えられ、「いいよお〜」と、お互いを受け入れることができるようになりますと信じます。

もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。



- 礼 拝 毎週日曜日 10:30~12:00
- 祈 禱 会 毎週金曜日 10:30~12:00
- イズミン・キッズ 毎週日曜日 9:30~10:20
- おやこ de えほん 毎週水曜日 10:30~13:30
- Friendly English 毎週木曜日 9:30~11:50 (大人向け)

